

むつみ

初 刊 行 日	平成 11年5月
発 行 日	平成 23年7月30日
発 行 所	社会福祉法人足利むつみ会
住 居 所	栃木県足利市利保町49-4
発 行 責 任 者	阿由葉 寛
電 話	0284-43-0414 FAX 0284-41-4687

『震災に備えて』

社会福祉法人足利むつみ会理事長 阿由葉 寛




東日本大震災は人命や街並みなど多くのものを一瞬でのみこんでしまった。しかし、人々は瓦礫と廃墟と化した街並みにただ啞然と立ち尽くすだけではなく、復興を目指す多くの力を感じとる事ができた。多分、これが人類の証なのだろう。

幸い、私どもの法人は地震発生直後からの翌朝までの停電とその後の計画停電の影響を何度か受けただけで、直接の被害はなかった。

本当に幸いであったと思う。この経験をただ良かったとするのか、次に生かすべく対応をするのか、多くの人何かをしなくてはと考えていることと思うが、いち早く実行に移すのが我々の役目である。今まで通りではない事は、電力の問題を取っても一目瞭然である。

高齢者、障害児、障害者を守るのが、私たちの仕事である。これからは、一歩先を見ながら（考えながら）仕事をすることを全職員にお願いをしたい。

ボーイスカウトのモットーに「そなえよ、つねに」という言葉がある。真似をするわけではないが仕事の基本としてほしい。



kitazato 社会就労センター きたざと

☆施設外就労で就労意欲が高まっています!!☆

今年1月より、アラマークユニフォームジャパン(株)様で施設外就労を行っています。

ユニフォームレンタル専門企業で、環境マネジメントシステムISO14001:2004認証を取得し、社会環境への取り組みを積極的に行っている企業です。その取り組みの1つとし、ハンガーを洗浄しリユースする仕事と、環境整備として除草作業に従事しています。

B型利用者10名で、月曜日から金曜日の5日間、午前・午後各3名が交代で企業に出向き作業を行っています。

メンバー全員、仕事に責任感を持って、いきいきとやりがいを感じながら、暑さ寒さに負ける事無くお仕事に取り組んでいます。



施設長挨拶

社会就労センターきたざと施設長 阿由葉 寛

平成23年度は、工賃倍増5カ年計画最終年です。きたざとでは全職員が工賃アップに向けて努力していますし、平成23年度以降も、少しでも多くの工賃をお渡ししたいという思いは、常に持ち続けなければなりません。高工賃を支給する為の仕事を確認することは現状ではとても大変ですが、全職員で知恵を絞って新たな挑戦を続けていきたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

平成22年度 決算報告

貸借対照表

(平成23年3月31日現在) (単位:円)

貸借対照表表体。資産の部と負債の部を対比し、純資産の部を算出している。流動資産、固定資産、流動負債、固定負債、純資産の部が主要な項目である。

事業活動収支計算書

(自)平成22年4月1日 (至)平成23年3月31日 (単位:円)

事業活動収支計算書表体。収入と支出の科目別に明細を記載し、経常収支差額、特別収支差額、繰越活動収支差額を算出している。

資金収支計算書

(自)平成22年4月1日 (至)平成23年3月31日 (単位:円)

資金収支計算書表体。収入と支出の科目別に明細を記載し、当期資金収支差額、前期末支払資金残高、当期末支払資金残高を算出している。



デイ・アクティビティーセンター銀河

銀河は、障害を持つ方が作業や様々な活動を行うための通所施設です。プログラムも個々に合ったものを選ぶようサービスの幅を広げ、やりたいことにチャレンジする自由選択活動も行っています。個人のニーズや障害の多様化に配慮するため、小グループに分かれて活動しています。

今年度に入り、創作活動に必要な材料を購入しました。

また、今年度から誕生日会を開くことになりました。誕生日をお祝いし、ジュースやおやつを食べる楽しい時間を過ごしていただきたいと思います。



誕生日会で
ドーナツを食べたよ！

今後も、個々に合った活動を選ぶようサービスの幅を広げていき、毎日楽しく有意義な時間が過ごせるよう支援させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

	午前	午後
月	音楽活動	再生紙作り・個別運動
火	楽器演奏	ボカシ作業・個別活動
水	スポーツ	カラオケ・スヌーズレン等
木	再生紙作り	ボカシ作業・個別活動
金	音楽活動	創作活動・個別運動
土	個別活動	外出・ビデオ鑑賞等



デイセンターWIN



デイセンターWINでは、午前中と火曜日の午後は個別活動の時間を設けており、利用者の皆さんは個々に自分の好きな活動を行っています。その中で創作活動を頑張っている方が多く、たくさんの作品が出来上がりました。出来上がった作品はシルバー大学やカルフルとちぎなどの作品展に出品したり活動部屋に飾ったりしています。お時間がある時、ぜひご覧になって下さい。



施設長挨拶

デイ・アクティビティーセンター銀河施設長、デイセンターWIN管理者 阿由葉 弘美

日頃より施設運営に関しましては、御理解御協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

また、東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。

今回の大震災は、今までの日常のあたりまえの事が突然失われ、普通であることがどれだけ幸せなことであるか、改めて実感いたしました。そこで、今、私達に出来ることはと考え、利用者の皆さんへの体調等は十分に配慮しながら節電等、出来ることから1つずつ対応して、この夏も乗りきろうと思っております。現在、対応の1つとしてグリーンカーテンを作ろうとゴーヤの苗を育てております。小さなことでも集まれば大きな力になると思います。今後とも皆様のご指導、ご理解をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



セルプみなみ

施設長挨拶

セルプみなみ施設長 松本 純幸

今年3月11日の東日本大地震で多くの尊い命が失われ、また、福島第1原発の事故でも、多くの人々がいまだ糸口の見えない避難を強いられています。幸いにも、足利市では屋根瓦が落ちたり、塀が倒壊したりという被害はありましたが、人的被害が無かったことは不幸中の幸いでした。地震の後、ガソリンの不足により送迎車のガソリンの確保に苦労をしましたが供給がスムーズになり安心しました。作業では、一時、受託作業の仕事が無くなり大変に苦労をしましたが、現在は順調に進んでおります。また、今夏は節電ということで、暑さ対策をしながら計画停電にならないように努めてまいります。今後とも、利用者の方々が地域で生活ができるように職員一同、頑張りますのでどうぞよろしくご指導の程お願い申し上げます。

生活介護事業としてハンガー洗浄作業、就労継続支援B型事業として布団カバーの値付け・印押し・品質表示の確認作業とクッキー作業と青空清掃作業に分かれて作業を行っています。みなみの作業では今年2名の利用者をお迎えし、総勢29名になりました。

青空の清掃作業



布団カバーの印押し作業



ハンガーの洗浄作業



クッキー作業



新しくセルプみなみでは液晶テレビと、カラオケの機械を購入しました。前のテレビより画面が大きくなって見やすくなり、前の機械では曲数が少なく同じ歌を歌っている人も居ましたが、今のカラオケの機械では900曲も内蔵されているため、いろいろな歌を楽しむ事が出来ます。マイクも2本付いているので同じ曲を2人で歌う事も可能となりました。カラオケを待っている間は創作活動の中で、絵を書いたりなどして順番を待っている人も居ます。



選択活動では、それぞれのやりたい事を楽しんでいます。



両毛圏域障害者就業生活支援センター

●22年度の実績

	身体	知的	精神	その他	合計
登録者	5	25	15	2	59
実習件数	5	25	9	0	39
就職件数	6	50	25	0	81

※就職件数はトライアル雇用の件数も含めています

【主な就職先の業種】

- ・製造業 (組立・製造補助・検査・在庫管理など)
- ・スーパー (品出し・鮮度管理など)
- ・清掃 (工場内清掃など)
- ・リネン業 (仕分け・タオルたたみなど)

登録者の総数は330名となり、その内、137名の方がお仕事をされています。就職する事が自立ではなく、仕事を続けながら社会の中で生きていく事が、本当の意味での自立だと感じております。その自立を支えるために、就職に向けての支援と併せて就職後の定着支援、生活支援に力を入れていきたいと思っております。

●23年度の活動予定

昨年度に引き続き、交流会事業の実施、特別支援学校職業教育指導充実事業の参加を行います。新たに、高等特別支援学校開設にあたっての整備検討委員会の参加、安足地区精神障害者地域支援ネットワーク事業の「精神保健福祉研修委員会」への参加も予定しております。様々な活動を通して、他機関との連携を図り、よりよい支援を目指していきたいと思っておりますので、今年度もよろしくお願い致します。



グループホーム・ケアホーム

エコで涼しく! 今年の夏はグリーンカーテンにチャレンジ!!

東日本大震災の影響で、今年の夏は例年以上に節電について真剣に考え実行する必要があります。そこでグループホーム・ケアホームでは現在、ゴーヤで作るグリーンカーテンにチャレンジしています。朝の水やりなどはバスが来るまでの間などの時間を利用して、みんなで協力して行なっています。

ゴーヤは大きく成長した葉で窓から入る直射日光を遮光できる上、植物は常に水分を蒸発させているので、そこを通る風は涼しく感じると言われているほか、さらに、美味しいゴーヤが収穫できちゃうなんて、一石三鳥!

これからもゴーヤが、日々の成長をしていくのを楽しんで見守っていきます。



児童デイサービス ビタミンクラブ

知的な障害を持つ児童が日常生活における基本的動作を習得し、日常生活・集団生活に適應することが出来るよう、身体及び精神の状況並びに、そのおかれている環境に応じて適切な支援及び訓練を行い、利用者の個性を尊重しつつ最大に伸ばして、楽しさと満足感を感じながら成長できるように支援をしていきます。本年度より開始し、スタッフ一同新たな気持ちで利用者の支援を行っていきたいと思います。



日中一時支援事業 スマイル

日中において活動場所が必要な障害児者を対象としたサービスで、活動する場を提供し、見守り及び社会に適應するための日常的な訓練を行うとともに、障害児者を持つ家族の就労支援と日常的に介護している家族の一時的な休息等の支援を行っています。また、必要に応じて本人及び家族の介護負担の軽減としてタイムケアサービス（要相談）も行っています。



特別養護老人ホーム 青空



施設長挨拶

特別養護老人ホーム青空 施設長 阿由葉 誠

連日厳しい暑さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。また、このたびの東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。1日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。青空と致しましても協力したい思いがあり、いつでもお年寄りを受け入れ出来るよう体制を取ってきました。今年夏祭りを「青空秋祭り」として10月9日に開催することとなりました。開催月の変更に伴い皆様大変ご迷惑をお掛け致しますが、ご利用者様を始めとしまして、多くの方々に楽しんでいただけますよう一生懸命企画している最中です。皆様是非お越し下さい。職員一同心からお待ちしております。最後になりましたが、今後もより一層のご指導とご協力下さいますようお願い申し上げます。

特別養護老人ホーム青空では『ユニットケア』に取り組んでいます

『ユニットケア』とは？

施設に入居した高齢者に対し、そこでの生活を限りなく在宅での生活に近いものにし、それぞれの利用者の意思と自己決定を最大限尊重したケア（個別ケア）を実現していくため手法です。

ユニットケアの定義

少人数の家庭的な雰囲気の中で専属のスタッフが入居者の方一人ひとりの生活習慣や意向（好み）を尊重し、個性や生活リズムに沿ってケアを行い、できるだけ今までの生活（暮らし）つまり「その人らしい生活」が継続できるよう支援すること。ユニットケアを実現するには「ハード（環境）」と「ソフト（暮らしのサポート）」の両輪が必要であり、それらを稼働するチーム力「システム（施設運営の中での仕組みづくり）」が相まって効果を発揮するものであり、そのどれもが欠けてもいけません。



ハード（環境）

ユニットは暮らしを営む場所である。1ユニット10名の個室と共同生活室（リビング）で構成され、身の置きどころとしての個室はその空間（温度、明るさ、音）と個人のプライバシーが保障される場所である。生活に必要なものは身近に設置され、居室には洗面台やトイレがあり、他人に気兼ねすることなく自由に使うことができる。リビングは利用者が互いになじみの関係を築き、交流を図る場となる。ユニット内に台所や浴室（個浴）も設置されています。またユニットを出るとユニットを越えた交流ができ、暮らしを豊かに楽しむ場所、地域に開放されている場所がある。

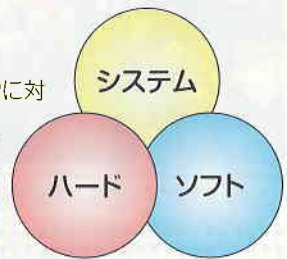


ソフト（暮らしのサポート）

ユニットごとに固定で配置された職員による入居者一人ひとりの個性や生活のリズムに沿ったケアの提供。入居者が今までどんな暮らしをしてきたかを見つめ、安心できる居場所を作り出す。茶碗や箸などの私物、日常生活用品や家具などを持ち込み、自由な自己決定を積み重ねることが出来るような尊厳ある生活を目指す。個々の好みや意向、生活ペースを把握し、起床、食事、排泄、入浴、活動、就寝などの時間や内容を職員が個別に合わせる。（生活単位と介護単位の一一致）

システム（施設運営の中での仕組みづくり）

施設は様々な専門職の集まりで構成されています。職員一人ひとりの自立と組織力を高めるためには運営に対する仕組みづくりや工夫が必要です。理念の統一、情報の伝達と活用、記録、ミーティングや会議での情報共有、シフトの工夫や研修のあり方などチームケアを強化し、「ハード」と「ソフト」を結びつける「システム」の構築がユニットケア実践のカギである。



ケアプランと生活プラン

入居者一人ひとりに関わる職員全員が同じ方向を向いてケアをするためにケアプランがあります。入居者のニーズや課題を捉え、目標を立てて必要なケアを実施します。一方で入居者の今までの生活習慣や家庭環境を踏まえ、これからの生活の意向や希望をどのように考え、一つでも多く実現するためのものが生活プランです。この「ケアプラン」と「生活プラン」が入居者様の暮らしを支えています。

医務室 健康ひとくちメモ

計画停電導入時の熱中症に注意



熱中症は体内の水分と塩分が失われて、脱水状態になり起こります。炎天下での激しい運動や作業の際に起きるものと思われがちですが、実は室内の日常生活での発生も多いのです。発症時は涼しい場所で頭を冷やし、水分と塩分を補給します。熱があるからといってむやみに解熱鎮痛剤を服用してはいけません。意識障害や重篤の症状の場合は医療機関に受診しましょう。

予防のひとつとしてエアコンの使用も有効ですが、節電や停電対策としてペットボトル(2ℓ)に水を凍らせておいて、冷蔵庫の最上段に置き、保冷剤として代用。また熱中症にならないように身体を冷やしたり、溶けてきたら飲料水として飲むこともできます。暑さ対策の一例として皆さんもやってみて下さい。

足利障害者相談支援センター

22年度は実人数で、者:452人、児:90人 計542人の方から5804件の相談がありました。また、ケース検討会は133回開催し、142件の検討を行いました。

今年度の事業

- ・通常の相談業務及びサービス利用のためのプラン作成、申請の支援、年金・手帳等の各種申請支援の他、以下のような事業を行います。
- ・個々のケースのケア会議主催。また、連絡調整会議を開催し困難事例等について検討を行なう。調整会議については自立支援協議会の事業内にて開催する。
- ・足利市地域自立支援協議会の運営に協力し、協議会の充実を働きかけていく。
- ・関係機関や新たな相談支援事業所等との連携を図っていき、身体・知的・精神の3障害の相談体制を充実・強化する。
- ・特別支援学校・小中学校特別支援学級の相談会等への協力
- ・教育機関と連携し、成長過程における各段階を繋げるネットワークの構築を図り、発達支援シート・サポートファイル周知に協力。
- ・両毛圏域障害者就業・生活支援センター等と連携を強化し就労支援の充実を図る。
- ・安足福祉センターや障害者団体教育関係等と協力し、研修会等を開催。
- ・安足地区障害者相談支援事業者等連絡会に参加し、安足地区における指定相談支援事業所とも連携を図る。
- ・とちぎりハビリテーションセンター、県南児童相談所の出張判定に協力。
- ・広報誌を年2回発行。

困った時にはすぐご連絡を！ ☎0284-44-0307 (電話相談24H、365日対応) 相談支援専門員 尾澤まで

足利むつみ会後援会

平成22年度報告

・会員拡大及び会費収入内訳

平成23年3月31日現在

会員数	144人	2団体	(前年度 146人	2団体)		単位:円
法人会員	2団体	(前年度 2団体)	@	30,000 ×	2口=	60,000
個人特別会員	39人	(前年度 42人)	@	10,000 ×	41口=	410,000
個人会員	109人	(前年度 104人)	@	3,000 ×	1,222口=	3,666,000
合 計						4,136,000

・資金造成

寄付先	寄付金額	寄付年月日
社会福祉法人足利むつみ会	4,000,000円	平成23年3月30日

・会議の開催

開催日	会議名	備考
平成22年5月19日	第13回定期総会	平成21年度決算、平成22年度予算等について
平成23年3月16日	役員会	平成22年度決算見込み、平成23年度予算案等について

・会員参加事業

月 日	行 事	参加数	備 考
平成22年 7月25日	第2回青空納涼祭	約200名	屋台等ボランティア80名含む
平成22年 8月 6日	第24回足利むつみ会夏祭り	約500名	屋台等ボランティア100名含む
平成22年12月17日	足利むつみ会クリスマス会	200名	余興等ボランティア60名含む

平成22年度収支決算書

自平成22年 4月 1日
至平成23年 3月31日

収入の部

単位:円

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会 費	4,200,000	4,136,000	△ 64,000	内訳は事業報告参照
寄 付 金	0	0	0	
預 金 利 息	1,000	1,015	15	
前年度繰越金	423,927	423,927	0	
合 計	4,624,927	4,560,942	△ 63,985	

支出の部

単位:円

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
法 人 寄 付 金	4,000,000	4,000,000	0	法人施設整備等
通 信 費	10,000	3,410	△ 6,590	切手、手数料
印 刷 費	30,000	12,432	△ 17,568	通知・資料・広報誌等
消 耗 品 費	5,000	2,655	△ 2,345	コピー用紙
会 議 費	40,000	38,140	△ 1,860	役員会・定期総会費用
慶 弔 費	50,000	0	△ 50,000	
予 備 費	489,927	0	△ 489,927	
合 計	4,624,927	4,056,637	△ 568,290	

収入合計 4,560,942

支出合計 -4,056,637

差引残高(繰越金) 504,305 左記の金額を次年度繰越金とする。

例年、皆様に多大なご協力をいただき、誠にありがとうございます。
今年度も引き続きご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。
また、平成23年5月24日に開催された定期総会において、本法人から感謝状の贈呈を受けましたことをご報告申し上げます。



東日本大震災救援物資搬送事業(全国セルフ協)を終えて

平成23年4月1日～15日にかけて計4回に亘り、去る3月11日に発生した「東日本大震災」による地震及び大津波により被災した東北三県の施設関係者に対し、救援物資の搬送事業を行いました。今回の事業は全国セルフ協の呼びかけにより全国の加盟施設等より非常に多くの支援物資を宇都宮にある今回の事業の拠点施設である「ハート飛山」に送って頂きそこから4回に分けて被災地の拠点施設に搬送を行いました。当法人からは被災地に4tトラックとワゴン車を派遣し、また多くの人員を宇都宮の拠点施設に派遣し、物資の仕分け作業等を行いました。事業期間中はまだ大きな余震が続き、東北自動車道は開通していましたが、道路はところどころ波打ち、ひび割れ、補修も完全でない状況で、通常よりも大幅に時間がかかりましたが、4回とも無事に救援物資を届けることができました。地震や津波で被害を受けた地域を目にするたび、今回の震災の被害の大きさにただただ圧倒されるばかりでした。しかしながら、印象的であったのは、搬送先の職員や利用者の皆さんが一樣に前向きで明るく対応して下さいましたことでした。私達が出来ることと言えばこれくらいのことしかないのかもしれませんが少しでも力になれたのなら幸いです。

震災の影響は大きく、復興には長い時間がかかるかもしれませんが、私達も節電など自分たちの出来ることを行いながらこれからも少しでも復興の手助けができればと思っています。“がんばろう日本！”

●搬送事業の様子&津波被害の様子

デイ・センターWIN 高久保 夏樹



《お知らせ》

今年の納涼祭は夏場の節電のため延期し、
9月30日(金)16:00～19:00に秋祭り
として開催します。



9月30日 開催

きたざと村の秋祭り!!

